

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	オルクス		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	巫女
	エンジェルハイロウ					
オプション	サラマンダー		年齢	15	性別	女
覚醒	渴望	衝動	憎悪	初期侵食率	40	%
出自	姉妹	経験	仲間との接触	邂逅	腐れ縁	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	10
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	10
精神	2	0	0			2	戦闘移動	15
社会	2	0	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	10		R C			交渉		
回避	1		知覚	9		意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
拳銃					
パワーソース:ピサイド					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
業師《スペシャリスト》	P	N			
花燐	P 誠意	N 無関心			
花恋	P 誠意	N 無関心			
姉妹(瀬々倉光葉)	P 懐旧	N 悔悟			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	6	残り財産P:	0		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネイバー	1	—	常時	至近	自身	自動	RB	
効果:	衝動判定ダイス+Lv個 Lvup不可							
オリジン:プラント	5	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	シーン中【感覚】達成値+Lv×2							
C:サラマンダー	2	2	メジャー	—	—	—	—	
効果:	メジャーC値-Lv							
R:エンハイ	2	2	リアクション	至近	自身	—	—	
効果:	リアクションC値-Lv							
神の眼	1	1	リアクション	至近	自身	対決	—	
効果:	〈知覚〉置換ドッジ							
氷神の悲しみ	2	3	メ/リ	—	—	—	—	
効果:	判定ダイス+ [Lv+1]							
陽炎の亡霊	1	6	オート	至近	自身	自動	100	
効果:	ドッジに成功したらメインを実行							
ワンショットツークル	2	3	メジャー	武器	2体	対決	—	
効果:	射撃攻撃の対象を2体に変更							
ハンドリング	2	1	オート	至近	自身	自動	—	
効果:	〈知覚〉達成値を+Lv×3							
パワーソース:ピサイド	2							
効果:	点数調整用							
天使の外套	★	—	メジャー	至近	自身	自動	—	
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

エスケープ・フロム
PC1
ロイス:花燐&花恋 カヴァー:指定なし
ヒロインと同行して脱出を目指す

八百万の神を信仰し、その中の一柱とされている"ククノチ"という御神木を大事にする家に生まれた。この場合の"神"というのは、レネゲイドによる特別な事象の事を指しており、雷が神に例えられるように、野椎茅の先祖はレネゲイドを神に例えたのである。日本神話に登場する木の神、ククノチとは別物だが、彼女の家では本物であるかのように扱われている。実際、代々信仰という形でレネゲイドを蓄えた"ククノチ"の力そのものは本物。
"ククノチ"は起源にあたる黄泉の力...イザナミの力を封じている物だと教えられ、1代につき1人、家系に連なる人間の中から最も適正のある者を選び、人柱として捧げてきた。"ククノチ"の封印を弱めない為である。

幼少期、野椎茅は子供らしからぬ子供だった。合理的、という言葉が突き詰めた存在と言えいいだろうか。無駄を省き、遊び心を持たず、『必要だからそうする』という事しかしない人間だった。そして、それに異を唱える大人もまた、存在しない。彼らもまた同じような幼少期を送ってきたからだ。野椎家では、人柱になる人間以外は全て、とあるペンダントを付ける事が義務づけられている。それは本人には一生外せず、着用者に合理性を追求させるという代物。とある神具(というかDロイス遺産継承者:海鳴の石板)から生まれた道具であり、人柱という非人道的行為を仕方ない、程度の思いで実行させる為の物。故に茅は面白みのない子供として育ったが、唯一姉の事だけは慕っていた。姉は人柱として選ばれたが故にペンダントを付けておらず、とても感情的で面白い存在だったから。自分には理解できない事が多かったが、茅は理解できない事を否とする人間ではなかった。

そんな彼女が13歳になったある日、イレギュラーが起きた。元々は人柱となるはずで、才能に溢れていた彼女の姉が突如として消失したのだ。行方不明や家出等ではなく、茅以外の記憶から、彼女の姉の存在が消えていた。儀式の為に人柱となるのは自動的に茅という事になっており、今まで姉に向けられていた淡い憐憫の眼は自分に向けられるようになった。